

**平成29年度 全国学力・学習状況調査における**  
**北九州市立 市丸 小学校の結果分析と今後の取組について**

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・物語文や説明文、紀行文など様々な形態の文章に慣れ、読解力の定着を図る必要がある。日々の漢字練習、読書、辞書を引く等の基本的な学習の反復が必要である。
	よくできた問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	漢字を正しく読み書きする問題の正答率が低く、無解答率も高かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに上回っている。場面や心情を的確に読み取ることはできているが、その根拠や表現の工夫について自分の考えを持つことができていない。
	よくできた問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめたり、登場人物の相互関係や心情・場面を読み取ったりすることができていた。
	努力が必要な問題	発言の意図を正しく読み取る問題の正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っているが、昨年度より上昇している。数量関係や図形の知識・技能に課題がある。
	よくできた問題	整数や小数、分数の四則計算の正答率が高かった。加法と乗法の混合した計算を順序よく計算することができていた。
	努力が必要な問題	図形の構成要素や面と面との位置関係についての問題は、正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・数学的な考え方に基づく説明や理由の記述に関する問題の正答率が低く、無解答率も高かった。立式の理由や友達の考えを説明するなど筋道を立てて記述することを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断する問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	答えを求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題に誤答が多かった。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・「朝食をとる」「決まった時間に起きる」など基本的な生活習慣の定着に関しては、全国平均を上回っている。また、「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童も全国平均を上回っている。</p> <p>・「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童は全国平均を上回っている。夢や目標を実現させるために、具体的な目標設定を行わせ、行動に結びつけさせる必要がある。また、キャリア教育の充実を推進していく。</p> <p>・「1日当たり、3時間以上テレビゲームをする」と答えた児童が5割近くいて、全国平均を上回っている。</p> <p>・算数の勉強を「大切だと思う」児童は9割を超えているが、半数の児童が算数の勉強が「好きではない」と答えている。新たな問題に挑戦したり、あきらめずに取り組んだりすることに苦手意識を持っている。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>○基礎的・基本的な知識・技能の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1単位時間の中に「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業を行う。(全学年)</li> <li>・算数・理科を中心としたTT授業を実施する。(全学年)</li> <li>・過去問題、アシストシートを朝自習で取り組む。(全学年)</li> </ul> <p>○補充学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後も学習できる「放課後いちまる塾」を実施し、学力定着サポートシステムの活用を図る。(4, 5, 6)</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた学習時間(学年×10分)及び内容を設定する。</li> <li>・教科に応じた予習・復習の方法について、児童に理解させる。</li> </ul> <p>○メディアとの接触時間の再考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビやビデオ、ゲーム、スマホなどのメディアとの接触時間について、「親子で学ぶ規範意識」授業や懇談会を通じて周知し、家庭でのルールを確認してもらう。</li> </ul>
--